

# 市場の機能と政府の役割

「公共経済学」第2回  
別所俊一郎

# 今週のおはなし

2

- 「民間部門が効率的な資源配分をもたらす」
  - どのようなメカニズムで?
  - 「効率的な資源配分」の意味とは?
- それでは政府部門の役割とは?
  - なぜ政府部門が必要になるのか?
  - 何を期待されているのか?

# Adam Smithの直観

3

- 政府は実際に公共の利益を追求しているか？
  - 公共の利益と一致することも、一致しないことも
  - 公共の利益を犠牲にして自己利益を追求するときも
  - 意図が裏目に出ることも
- 自己利益の追求が公共の利益を生む
  - 自己利益のほうが把握しやすい
  - 競争市場では、買い手が生産費以上にお金を支払ってもよいとすれば、それは生産される
  - 売れなければ倒産する(市場から退出する)
- しかし、市場が完全には機能しないケースはある

# 経済学における「効率性」

4

- 一般用語での「効率性」「効率的」とは少し違う
  - ▣ 「効率的な生産方法」のような、一般的な用語法と近い定義もある
  - ▣ 単に「効率性」と言うときにはやや異なる意味合い
- パレート効率性 Pareto Efficiency
  - ▣ 他の誰かの状況を悪化させることなしに、誰の状況も改善できない資源配分を「パレート効率的な」「パレート最適な」資源配分 という

# パレート改善

5

- Pareto improvement
  - 他の誰の状況も悪化させることなく、誰の状況を改善すること
- 望ましい政策の基準
  - パレート改善をもたらす政策は、だれの状況も悪化させないので必ず支持される(パレート原理).
  - そのような政策はめったに存在しない.
  - ではどのように判断するか?については次回以降.

# パレート効率性と個人主義

6

- 「不平等」には言及しない
  - ▣ 裕福な人と貧乏な人のギャップについては何も言わない
  - ▣ 裕福な人をより豊かにし, 貧乏な人は貧しいままにするような政策は「パレート改善」だが?
  
- 個人が自分で認識している効用が基礎
  - ▣ 消費者主権 consumer sovereignty
  - ▣ なにが自分に効用をもたらすのか(なにが望ましいのか)を把握していると仮定

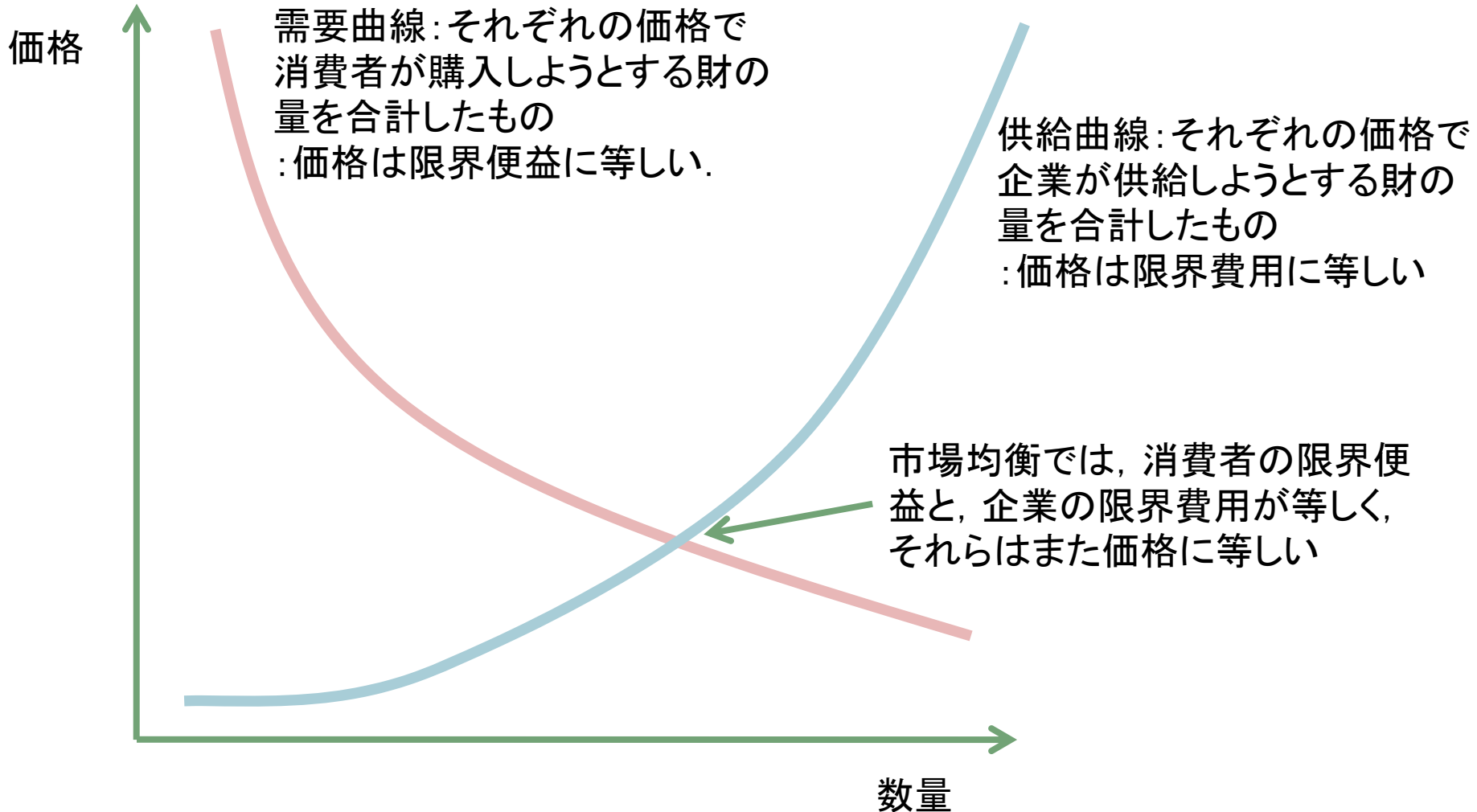
# 厚生経済学の基本定理

7

- 第1定理:あらゆる競争均衡はパレート効率的
- 第2定理:あらゆる効率的な資源配分は, 初期時点の適切な再分配をともなう, 競争的市場メカニズムによって実現される
  - 分権的市場メカニズムの有効性
- これらは「定理」である
  - **仮定**から導かれる論理的な帰結
  - 「市場の完全性」の仮定に強く依存
  - どのような仮定で, どういうロジックで導かれるのか?

# 競争市場の効率性：部分均衡

8





# 効率性の3つの側面

9

- パレート効率性のための3条件
  - 交換の効率性
    - 財は高く評価する人に消費される
  - 生産の効率性
    - 生産技術が十分に利用される
  - 生産物構成の効率性
    - 評価が高いものがより多く生産される
- 効用可能性曲線(効用フロンティア)上にいる。

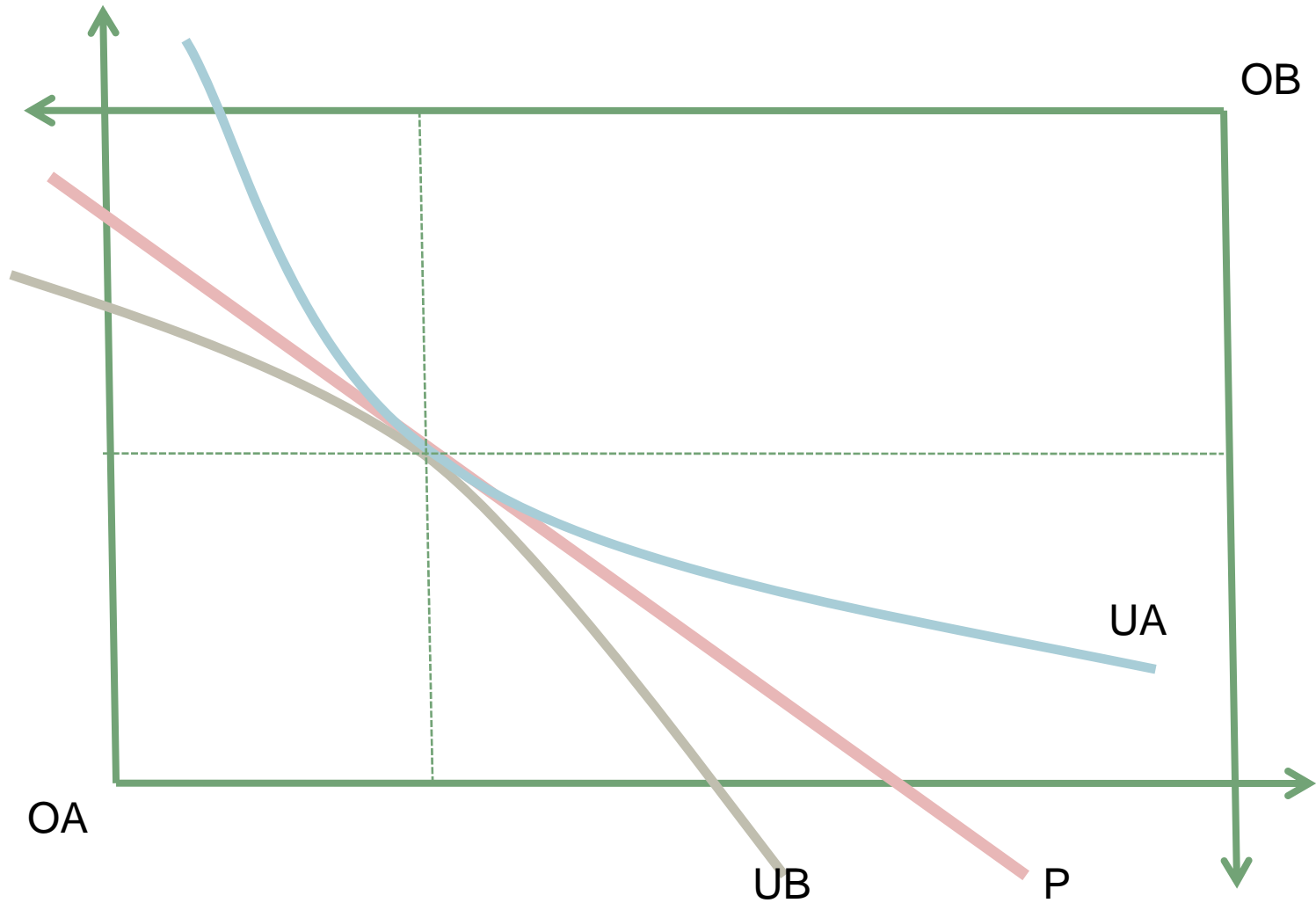
# 交換の効率性

10

- 利用可能な財の組み合わせが所与であるとき、すべての当事者の状況を改善するような取引が行われる余地がないこと。
  - 自分の持っているものと相手の持っているものを交換して、両方とも効用が増大する、ということがない
- すべて個人の限界代替率が価格比に等しい
  - 限界代替率: 他の財を1単位得るのと交換に諦めてもよいと考える財の量
  - 相対的に好まれないものを他人に渡し、相対的に好ましいものを入手できれば、効用は上がる

# エッジワース・ボックス

11



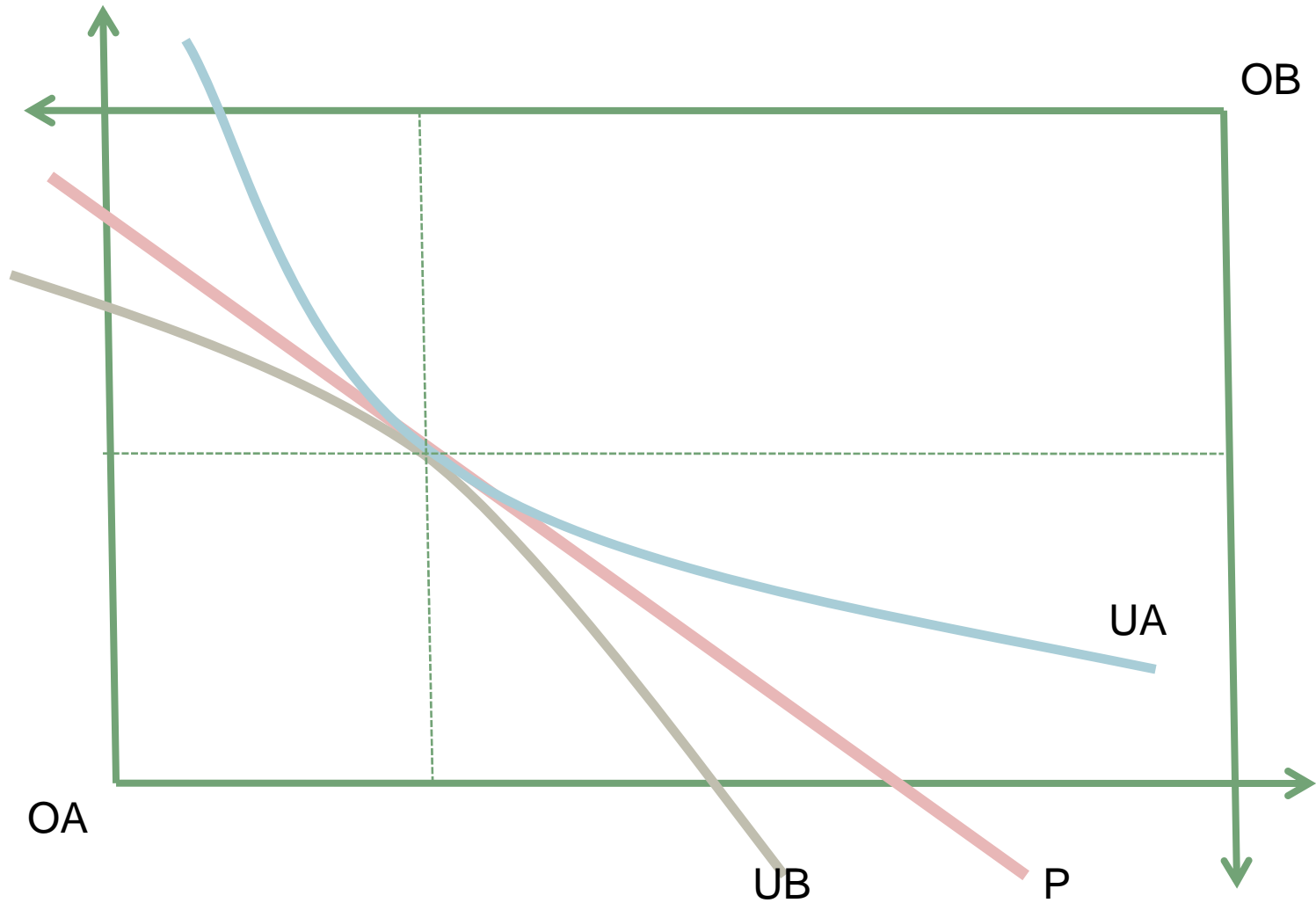
# 生産の効率性

12

- 生産可能性曲線(生産フロンティア)上で生産が行われる
  - 投入物に対する所与の支出水準のもとで、生産量が最大化される
  - 相対的により安い生産要素を用いて同量の生産を行う
- すべての企業の技術的限界代替率が要素価格比に等しい

# エッジワース・ボックス

13



# 生産物構成の効率性

14

- 生産の効率性が達成され、かつ、交換の効率性が達成される
  - 限界変形率が限界代替率に等しく、かつ、価格比に等しい

